

人と生れて よかつたか
私であつて よかつたか

この人と共にいて よかつたか

うちのおばあちゃんは今八十五歳。寝たきり老人です。

子を育て孫を養い、家と田畑を守つてきました。が、今はもう何の役にも立たないどころか、家中親せき中のお世話にならなければならぬから、だになつてしまいました。

「この手もこの足もこのいのちも、なんと役立たずやな。何のねうちもありやせん。ごくつぷしや。」
これがおばあちゃんの口ぐせです。

そのおばあちゃんの口ぐせが、もう一つあります。

「もつたいないことじや。尊いいのちもろうて、如來さまのいのちをもうて。」

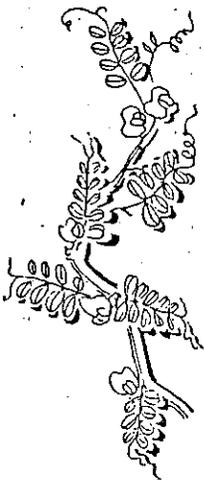
おばあちゃんのからだは、もうボロボロで役立たずですが、おばあちゃんのいのちは、いまでもキラキラ輝いてみえます。

人に生れて よかつた。
私であつて ほんとによかつた。
この人と共にくらすて ありがたう。
うわごとにおばあちゃんはお念仏を申すのです。

死ぬる身を
死なぬ身の
なむあみだぶに してもらい

浅原才市さんのうたです。

(勝林寺テレホン法話より)



勝林寺の門前にこのような碑が立ちました。出石町田結庄の井上昭夫氏が、この十一月、実父山田実次郎様の五十回忌を実家の寺坂山田博文氏宅でつとめるに当り、その記念として他の四人のご姉妹(重野・伊都子・弥生・すみれの四氏と相いかたつて建立して下さつたものです。碑の文字は福住小学校長の教育費道山田正直先生に揮毫をお願いしました。

ちなみに山田正直先生は「勝林寺報」今年九月号掲載の山田鳥石先生のご兄弟の勝林寺ご門徒です。

受話器をおとりください

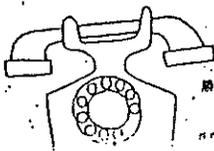
「勝林寺テレホン法話」は毎月一日十日二十日の三回かわります。カレンダーに◎印を入れておいて、忘れずに聞いてください。他の宗教の人、他の寺のご門徒の方々にも知らせてあげてください。

(079652) 5800番

いつでもどこからでもダイヤルしてみてください

電話で聞ける 法話

毎月十日ごとに番組がかわります。



勝林寺テレホン法話

門徒総代

選挙のこと

勝林寺ではいま「門徒総代」六名を中樞において運営されております。他の社会団体と違つて寺では、運営面のみならず法義教化という特別の機能をもつてゐるため、その両方の責任を負つてくださる総代さんの仕事は大変なものです。

その総代さんの改選は四年目毎(オリニピックの年)に行なうように「運営規定」に定められております。来年代議員会においてその選出が行なわれます。規定では「総代は代議員会において門徒全体の中から選ばれた者を住職が委嘱する」となつていますが、実際には六地区ごとに照考して決定する慣例となつています。明年初めの代議員会にこの「総代改選」のあることを公示いたします。

竜谷大学「礼拝堂」建設資金のおねがい

わたしたち浄土真宗本願寺派が立てゝいる学校に「竜谷大学」というのがあります。日本の数ある大学のうち一番古い伝統をもつ大学です。大戦前迄は主に僧侶の子弟に真宗の専門教育を行なつてきました。現在では真宗の法義を社会に広く宣揚する願ひのもとに、仏教関係学部だけではなく、たとえば法学部・経済学部などを置く総合大学として発展しております。

広大な新しい校舎や施設を京都深草に建て、年有為な青年を社会に広く送り出しているのですが、残念なことにはその教育の中心をなさなければならぬ「礼拝堂」がまだありませんでした。お念仏中心の教育をすることの学校に、欠けてはならない施設です。その「礼拝堂」建設のための資金を勝林寺ご門徒にもお願いして頂きました。一戸千二百円です。何卒趣旨ご理解いただき、十一月十日迄に代議員様を通じてご納入下さいますようお願い致します。

盛り上つた「別修報恩談」

すく盛り上のあつた「報恩談」でした。早朝から仏師役員の方々が、それぞれ料理の準備に大わらわでしたし、仏社会員の人々も午後一時にはつめかけて(予定のソフトボール大会は雨のため流れてしまいましたが)それぞれ設備など働いてくださいました。定刻四時半には宮島千秋氏運転のバス二杯に運ばれてきたお年寄りと共に百人余りが本堂にならびました。その上、他の寺の仏社役員の人々も来賓見学ということでお参りくださいました。「お正信偈」(草譜)のおつとめに続いて住職のご法話を聞きました。みなで「真宗宗歌」をうたい仏社役員による幻燈上映がありました。「大悲無償」と題する演曲法縁幻燈はことのはか感銘ひとしおでした。

ついで「おととき」の真がひらかれ仏師用意の酒肴に老若男女なごやかな交歓のひとときをもちました。「この冬をどうぞお元気に」の仏社仏師会員の声に送られてお年寄りのバスが寺を離れたのはもう十時すぎでした。

兵庫教区仏師連盟幹部研修会 勝林寺で(十月十八 九日)

参会者は予定より増えて百二十人余りでした。各寺の坊守さんの事前準備も大変でした。ことに勝林寺仏師の役員がたは、なんでも立派な研修会に盛り立てねばという心意気からの粉骨砕身のご奉仕でした。食事は一切、出石カラーを盛りこんだ手造り山菜料理、寝具の世話からお風呂の用意まで、見事研修会の縁の下の力もちの役目を果たしていただきました。

研修会は岩田アサオ先生・兵庫教区教務所長様の講義と勝林寺住職司会による話し合い研修と、なかなか活発な充実した二日間でした。会終了後方々から、勝林寺仏師に対するお礼やおはめの電話やお手紙をいただいております。皆様に一々お伝えできませんが、かわつてあつく御礼を申し上げます。ありがとうございました。

